

「“裁き”のそのあとで

—加害といかに向き合うか—



5月16日(土)

『LIFERS』

ライファーズ—終身刑を越えて

坂上香
『LIFERS』監督



立岩真也
先端総合学術研究科教授



6月13日(土)

『休暇』

上田寛
法科大学院教授



望月昭
文学部・応用人間科学研究科教授



7月18日(土)

『カナリア』

佐賀千恵美
佐賀千恵美法律事務所・弁護士



中村正
産業社会学部・応用人間科学研究科教授

会場：立命館朱雀キャンパス 5F 大講義室 (ホール)

参加費：¥800 立命館大学教職員・学生
京都シネマ会員 ¥500

時間：13:00 開場 13:30 開演 (16:30 終了予定)

当日 13:00 よりチケットの販売を開始します (事前の受付及び整理券の配布はございません)

*ご来場には公共交通機関をご利用いただき、自転車、バイク、車での来場はできる限りご遠慮ください。周辺には有料の駐輪場、駐車場がございますので、ご利用いただくこともできます。
*満席の場合ご入場を制限させていただくこともございますのでご了承ください。



「“裁き”のそのあとで

—加害といかに向き合うか— の開催にあたって

「シネマで学ぶ人間と社会」という統一テーマのもと、フィルムアートに表象された「関係性の様態」の解釈をととして現代社会の不安や希望や課題を照らし出したいと思っています。2008年度には第1弾としてシリーズ1「家族の現在」を開催し、みなさんの好評を得ました。その続編として、本年度はシリーズ2～4を開催いたします。まずは、シリーズ2として「“裁き”のそのあとで—加害といかに向き合うか—」をテーマとした日本映画をとりあげます。臨床人間科学の観点から読み解く講義もおこない、人間と社会の今後にとってのアートの持つ創造性・触感性・破壊性等を考えていきたいと思ひます。

中村正（企画コーディネーター）



5月16日（土）
ライファーズ—終身刑を越えて
2004/ 日本 /91分 /out of frame

想像を絶する犯罪に走ったライファーズたちは、そのほとんどが10代のころから麻薬におぼれ、傷害事件を繰り返し、何度も逮捕され続けていた。そんな彼らも、服役した後でもう一度人生をやり直そうと懸命に努力を続けている。彼らにとっての日々の支えとは何か？ 事件の被害者や遺族はどのような気持ちで過ごしているのか？ そして我々は突然降りかかる事件や事故にどう向き合えばいいのか、その答えがココにあるかもしれない。

・坂上香（さかがみかおり）…1965年生まれ。ドキュメンタリー映画監督。津田塾大学教員。TV映像制作を経て、04年映画『ライファーズ 終身刑を超えて』を製作。New York Independent Film and Video Festivalの最優秀国際ドキュメンタリー賞などを受賞。

・立岩真也（たていわしんや）…大学院先端総合学術研究教授。立命館大学生存学研究センター長。専門は、社会学。主な著作 『私的所有論』（勁草書房）、『自由の平等』（岩波書店）、『ALS』（医学書院）、『良い死』（筑摩書房）など。



坂上香 × 立岩真也



6月13日（土）
休暇
2007/ 日本 /115分 /リトルバード

刑務官の平井は、職場で当たり障りのない付き合いを続け、40歳を越えた今も独身だった。ある日、姉の紹介でシングルマザーの美香と見合いをする。仲人に乗せられ、会ったその場で、二人の結婚は決まったような雰囲気。しかし、平井は、この結婚にささやかな希望を持っていた。処刑の際、下に落ちて来た体を支える役をやれば、1週間の休暇が取れる。美香を新婚旅行に連れて行きたい平井は、「支え役」を自ら志願するのだった…。

・上田寛（うえだかん）…法科大学院教授。専門は犯罪学。主な著作 『ソビエト犯罪学史研究』（成文堂）、『国際組織犯罪の現段階 世界と日本』（編著、日本評論社）、『未完の刑法—ソビエト刑法とは何であったのか』（共著、成文堂）など。

・望月昭（もちづきあきら）…文学部・大学院応用人間科学研究科教授。立命館大学人間科学研究科所長。専門は、応用行動分析学、対人援助学。主な著作 『対人援助学』キーワード集』（編著、晃洋書房）、『対人援助の心理学』（編著、朝倉書店）、など。



上田寛 × 望月昭



7月18日（土）
カナリア
2004/ 日本 /132分 /シネカノン

テロ事件を起こしたカルト教団“ニルヴァーナ”の施設から保護され、関西の児童相談所に預けられた12歳の少年・光一。しかし、彼の洗脳は解けず、迎えに来た祖父は4つ年下の妹の朝子だけを引き取って行ってしまった。教団の幹部で、指名手配中の母の行方は分からないままだ。そこで、妹を取り戻す為、児童相談所を脱走した光一は、同い年の少女・由希と共に東京を目指す。彼女もまた、母親を亡くし孤独な身の上だった…。

・中村正（なかむらただし）…産業社会学部・大学院応用人間科学研究科教授。専攻は、臨床社会学・社会病理学。男性学。主な著作 『家族のゆくえ』（人文書院）、『「男らしさ」からの自由』（かもがわ出版）、『ドメスティックバイオレンスと家族の病理』（作品社）など。

・佐賀千恵美（さがちえみ）…東京大学法学部卒業後、東京地方検察庁の検事に任官。退官後、京都弁護士会の副会長・京都府労働委員会の会長を経て、佐賀千恵美法律事務所を開設。著書に、『華やぐ女たち』（早稲田経営出版）、『意義・要件・効果 刑事訴訟法』（早稲田経営出版）。



佐賀千恵美 × 中村正



本企画は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業「臨床人間科学の構築—対人援助のための人間環境研究」プロジェクトとグローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点の研究成果として広く社会に発信するものです。

お問い合わせ先：立命館大学人間科学研究所 事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

TEL：075-465-8358 FAX：075-465-8342

E-mail：ningen@st.ritsume.ac.jp

URL：http://www.ritsumeihuman.com/

主催：立命館大学人間科学研究所

立命館大学生存学研究センター

共催：京都シネマ

後援：京都弁護士会

協力：out of frame、リトルバード、シネカノン